

小筆を活用しよう

新しい指導を考える会

けます。

書写は、大きく毛筆学習と硬筆学習に分けられます。毛筆といえば大筆が頭に浮かぶのではないでしょか。

実際、研究会などの毛筆を扱った公開授業では、ほとんどが大筆を使用しており、小筆に焦点を当てた授業にはなかなか出会えません。

しかし、小筆だからこそ可能な毛筆学習があるはずです。

ここでは、小筆に焦点を当て、意欲をもつて書写の時間を考えたいと思います。

楽しく取り組める毛筆学習について

1 小筆を見直そう

毛筆学習の時間に使う小筆は、最後に名前を書くときに使うものというイメージがあります。確かに、大筆で満足できる文字を書き、最後に名前を書き入れて一つの作品が完成します。

ここで考えたいのが、大筆で書く活動

に充てた時間と、小筆で書く活動に充てた時間の違いです。大筆で書く活動では、お手本を分析したり、自分の書いた文字と比較したりして、じっくりと時間をかけて取り組みます。しかし、名前を書き入れるのは、二、三枚ではないでしょう。せっかく満足した文字が書けたのに、小筆で学年と氏名を書き入れたらうまくいかなかつたと残念がる児童をよく見かけます。

次に述べる事例は、授業の中で行つた、小筆の指導です。まず、少しの水で墨をすらせます。硯に広がる墨の模様や墨の香りは心を落ち着かせるので、ときどき墨をする体験をさせたいものです。

次に、小筆を持つ児童が次の①～③についてできているかどうか確認します。

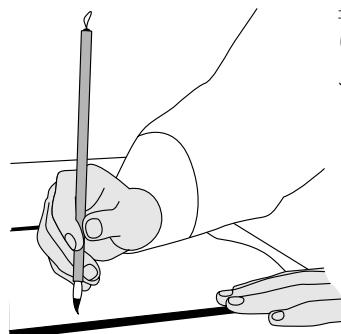
2 小筆を活用した指導例 1 —授業の中で—

次に述べる事例は、授業の中で行つた、小筆の指導です。

また、少々手間はかかりますが、事前に教師がそれぞれの児童の名前を書いた左のようなお手本を用意しておくとよいでしょう。

児童は、それを下敷きの下に名前だけが見えるようにずらして置き、それを見ながら名前を書きます。名前の字間のところなどは、作品の配列や名前の字数によつても違つてきますので、試し書きをさせます。作品から少し離れて全体のバランスを見るように指導するとよいでしょう。いろいろと試すなかで、児童の書きやすい方法をとらせるようにします。

すつた墨がなくなれば、片付けに移ります。残つた墨もほとんどなく、片付けがスムーズにできるでしょう。

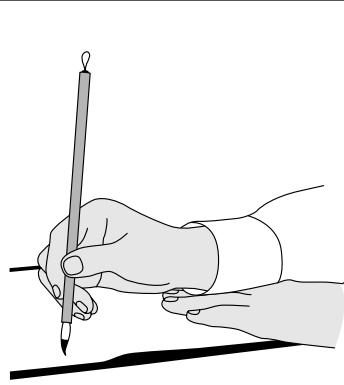


②腕の構え方

提腕法：筆を持った手の手首を固定せずに、軽く机上につけて書く方法です。

手首が固定されていないので、なめらかな動きができ、伸びやかな字が書けます。

枕腕法：筆を持たない手の甲の上に筆を持つ手を置いて、軽く支えて書いて書く方法です。慣れると書きやすいです。



③指のかけ方

単鉤法：人差し指と親指で筆を持ち、中指で支える方法です。「一本掛け」ともいいます。小筆の場合には、単鉤法が多く用いられます。



三年 光村 太郎

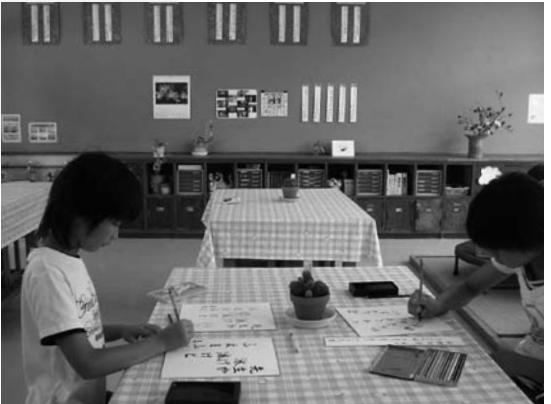
半紙の左側に名前を書いた
お手本を用意するとよい。

小筆を活用した指導例② ——小筆を身近に——

次に述べる事例は、授業以外の時間を
使った小筆の指導です。

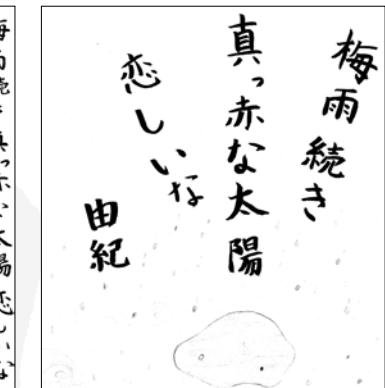
本校では毎月、全校で俳句集会をもっています。投句箱を設置し、集まつた俳句の中から、教師が子ども一人につき一句選び、小筆で短冊に書いて掲示しています。

全校児童二十名の小規模校ということもあり、次は、五・六年生が全校児童の俳句を書いて掲示する活動を試みました。

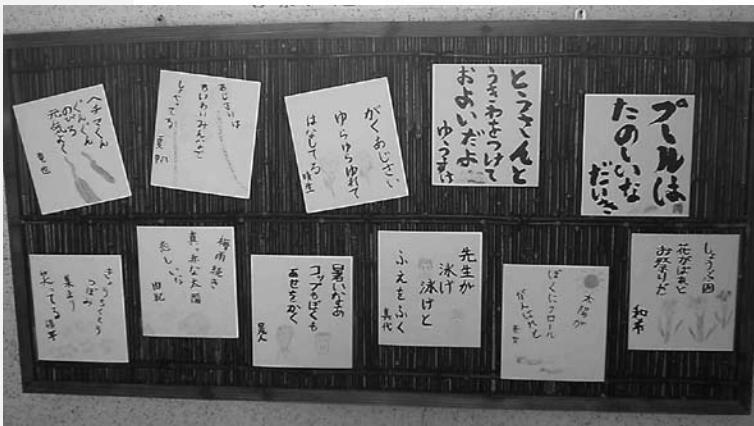


小筆のコーナーで、色紙づくりに取り組む児童

紙質にもよりますが、色紙は発色がよく墨がにじみにくいため、文字が書きやすい特徴があります。短冊にも書く試みをしましたが、墨の含ませ方が難しく墨がにじみやすいため、色紙よりも難しいようでした。短冊の場合には、筆ペンを使うと書きやすいでしょう。



先生のように、短冊に書いてみた
いという六年生の児童がいたため
筆ペンで書かせた。



こうしてでき上がった作品は、児童の目につく場所に掲示しました。

この部屋で、高学年が色紙に俳句を書いていると、他の学年の児童も、小筆に興味をもつようになりました。低学年が小筆を使うのは難しいですが、児童の思いを大切にしたいと考え、自由に体験させました。



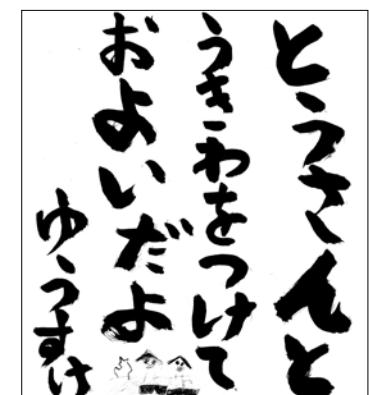
短冊でなく色紙に書いて、色鉛筆で絵も描き加えることにしました。最初は授業時間を使って行いましたが、もっと書きたいという児童や、さらにきれいに書き直したいという児童がいたため、授業以外の時間で小筆が使えるスペースを作ることにしました。フリースペースとして使っていた空き教室に、俳句の短冊を飾つたり小筆を自由に使えるコーナーを作つたりして、児童が気軽に小筆を使える部屋に変身させました。

4 おわりに

今回の取り組みを終えた後、児童から
小筆を使って絵手紙を書いてみたいとい
う声が出ています。この意欲を大切にし
つつ、書写学習の一環として、確かな文
字感覚、知識や技能を身に付けることが
できているかどうか、評価を加えつつ進
めたいと思っています。

* 短鋒：穂が短い筆。 穂が長いものは
長鋒という。

参考文庫
「書写指導」[小学校編]
〔全国大学書写道教育学会編
『小筆・筆へ練習帳』
（岡田崇花著　日本文芸社）



2年生の作品



4年生の作品



6年生の作品